

多摩大学アジアダイナミズム研修（済州平和フォーラム 2024）学生報告

※要約抜粋

1年生 杉山 遼

漢拏大学の学生は気さくに、優しく、フランクに話しかけてくれて話しやすかったし、何より日本語が上手でした。言語の壁にぶつかることなく、何不自由なく楽しく過ごせました。私は誰とでも、たとえ国籍が違っていたとしても分け隔てなく会話ができて、それを続けられるような語彙力とコミュニケーション能力を得たいと思いました。また、済州平和研究センター見学の際に、済州島の歴史と文化を深く理解することができました。私は研修に参加して本当に良かったと心の底から言いたく、来年も参加したいです。

1年生 中満 美穂

印象的な経験は、ルームメイトと生活を共にした事や、高校生や漢拏大学の学生との交流です。日韓 CEO 経営特別対談では、KDDI 創業者の千本俤生会長による話が聞け、「リーダーに必要な素質や力」を身に着けるには「世界を歩き回り、世界のさまざまなことを体験することが大事である」ということが学べました。研修に参加する前は、アジア情勢について詳しくは知りませんでしたが、グローバルセッションを受け、「地方外交」が環境問題の取り組みに対して熱意を持って取り組んでいる姿に感銘を受け、「グローバル」という単語の持つ意味を認識しました。

1年生 大内 悠生

多様な側面から見た国際問題を「平和」と結び付けて行われた会議だったので、「視点が広がった」ことが自分の成長につながった。私は海外経験がなく、井の中の蛙状態であったが、様々な層の韓国・外国人と交流し、ロールモデルとなれる人物とも出会えた。起業という私の夢を熱い言葉で後押ししてくれた人物は、千本会長であり経営理念やアジアで起きる問題を解決するための方針を細かく解説し、若者に向けて「ゼロからイチを生み出す」といった名言も添えてくれたので、私にとって大きな存在ができた。

2年生 福島 駿介

日韓経営セッションでの議論は大変参考になった。サムスン電子のクオン会長のようになるには、世界の改革をしたリーダーに会わなければならないということ、そのために3つのことを心がけるということであった。1つ目はAIと半導体。改革を起こす上でまず最先端のものを最低限知っておかなければならない。半導体についてだが、100年前まで世界を支配していたのは石油であるが今の時代は世界を制するのは半導体である。2番目に再生エネルギー等のグリーンである。3番目にアントレプレナーシップである。この3つのことを就職前に心がけたいと思った。

2年生 朴 紹然

私が得たことは大きく3つある。1つ目は国際会議への参加経験。そもそも国際会議に参加する機会がないし、国際機関の人々・有名経営者や政治家の話を聞くことができ、世界的に話題になっていることを確実に知ることができた。2つ目は英語の勉強ができたことである。TOEICの勉強をしている学生として英語でいくつかのセッションが英語で行われる国際会議は、英語の実力が向上できる最適な場である。第3に、就活時にフォーラム参加経験を生かしてみようと思う。印象的な内容・得たことを整理して面接で述べることはプラスになると思う。

2年生 林 和磨

自分の勉強していた韓国語が韓国でどの程度通用するのか、身をもって感じる事ができた。また、韓国人の優しさに触れることができた。多くの韓国人と会話する機会があり、自分から積極的に韓国人と韓国語で会話し、自分の伝えたいことを相手に伝え、相手の話を理解することが出来た。フォーラムでは共通して地球温暖化に関する問題や対策についてのお話が多くあった。このことから世界共通の問題として地球温暖化が重要であると知った。

2年生 深澤 敬輝

様々な視点から物事を理解する重要性を学びました。日韓の協力による平和構築や脱炭素化の取り組みの意義を学びました。韓国企業が世界で成功を収めた背景にはアイデアの豊富さがあることを学び、日本も独自の特性を活かして、協力することで、より大きな成果を上げる可能性があると感じました。将来のキャリアにおいて、国際的な視野を持ち、多様な文化や価値観を受け入れる姿勢を大切にしていきたいです。

3年生 與田 雄太

普段生活していると聞くことのできない、APEC、NATO、ASEAN、国連などの国際機構の事務総長や、福田元総理のお話などをリアルに聞けて、どこか他人事のように感じた現在の気候変動などの環境問題や世界恒久平和のことを自分事としてとらえることができ、ガクチカの題材としても取り入れるべき内容だと思った。また、済州ハンラ大学との学生交流会での私自身の「日韓学生の就活比較考察」をテーマとした学生発表も思い出深い。

3年生 田端 恭輔

今回の研修で得たことを、将来の私のビジネスキャリアに活用したい。私は今、国際系の授業を受講して国際ビジネスに関心を持っており、その際に一番大事なのが、各国状況を認識することだと思っている。今回の研修では、韓国の複雑な政治・経済の構造を認識した。韓国人はフレンドリーな人が多く、反日感情を持った人は私が見る限りごく僅かだと推測した。日韓両国がアジアの中心になって行くには、力強い外交で、アジア諸国からの信用を得るしかない。G7 寄りのアジア国家という複雑な状況下で、日韓両国は経済協力や文化交流を通じてのBRICS や新興国との関係強化を進めるべきである。

4年生 宮本 芽夢

多くのセッション対談を通して、これからの自分の国に、人生に対し希望を見出すことができた。私は今まで、報道を通して切り取られた情報の中の知識しかなかった。だが今回の研修で、普通なら一生会うことができないような政治家や、有名経営者の方々の貴重なお話を切り取られていない、まささな状態で聞けて、言葉の数がダイレクトに心に届き、くすぐられた。私はこの研修のおかげで、自分の人生観が変わるような経験をする事ができた。常に学ぶことに貪欲に、周囲の人間を大切に、将来経営者としても、人としても成熟した人物になり、今度は私が誰かの心に光を灯すような人になりたいと思った。



Google 社とUBER ASIA 経営トップと談笑する学生



サムスン電子元会長に質問する学生



済州平和フォーラム リーダーズ会議

多摩大での4年間を通して

グローバルスタディーズ学部 4年 高橋 英路

私はこの4年間全体を通して沢山のことを学び、その学びが今の就職先や今の私に大きく影響を与えてくれたと感じています。

私は多摩大学に入る気は最初全くありませんでした。本当に目標もなくどんな仕事に就きたいからといった理由もなく、高卒で働きたくないな、それなら4年制の大学に行こうという気持ちで多摩大学に入学しました。でも強いて入学した理由を言うのであれば、洋楽の歌詞が聞き取れればいいかなという本当に簡単な理由で入学しました

しかし、今では多摩大学で学んだことを活かし無事に就職先も決まりました。

私が就職したのは、宮大工です。

なぜ、宮大工を志望したかという私には目標、夢があります。その二つを叶えるのに大変で過酷かもしれないが、一番の近道だと思ったからです。それと自分が会社員として働いている姿が想像できず、職人で働いている自分自身がイメージできたので宮大工という職人の道を選びました。

私は基本自由に仕事をやりたいと思い、やったらやった分だけ成果が出て、その分自らの生活に直結する方が面白そうだなと感じ、すでに仕事をスタートしています。始めてから今まで私が大学で受けてきた講義や、教授からの「年上と話す時にはこのような意識をもった方がいい」といったアドバイスなどは学んでよかった、大学にきてよかったと感じています。今、大工の世界では外国人を採用して日本で働いている方が増えてきました。そうすると言語の壁に当たると思いますが、ですが多摩大学で学んだことを活かして積極的にコミュニケーションを取り、自分が通訳ではないがスムーズに作業を開始できたり伝えたいことを伝えることができるのは多摩大学で学んだことのおかげです。

これらを踏まえて、私は多摩大学を選んで本当によかったと感じ、関わった人達には本当に感謝しかありません。理由はどうであれ大学に入ったら嫌でも将来のことを考えたりします。そこで、自分が逃げずに真剣に向き合いこの大学に入ってよかったなと思える4年間にして、私が成長できる環境にしてくれるよう関わってくれた人に感謝を伝えたいです。学んだことを社会に出て活かすことが大事だと気づいたことが、今の自分を大きく変え、影響を与えたと強く感じています。

